

場 所		分 類		被ばく低減対策好事例集				
原子炉建屋内	RB	RB	1			時間	番号	
タービン建屋内	TB		2			距離		
R ZONE	R		3, 4,			3		遮へい
Y ZONE	Y		5, 6			4		線源の除去
G ZONE	G					5		遠隔、ロボット化
その他	Z					6		汚染拡大防止
()				7	その他			

内 容	1F-2PCV 内部詳細調査のうち X-6 ペネ開放作業における被ばく低減対策			
作業場所	2号機 原子炉建屋 1階 北西エリア			
概 略	燃料デブリ小規模取り出しの準備作業として、2号機原子炉建屋1階北西エリアに隔離部屋を設置し、X-6ハッチを開放した。			
評 価 (定性・定量)	効 果		対策前	対策後
		被ばく線量(mSv)	1224.10	655.40
		人工数(人日)	—	—

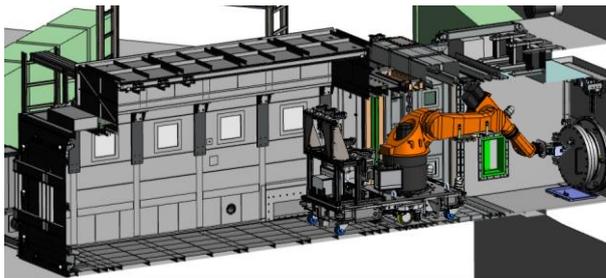
事例詳細	被ばく低減対策として、以下の項目を実施した。
------	------------------------

工学的対策

項目	概要
1 自動化/遠隔化/工法改善	X-6 ペネ磨き/気密扉の開閉/ハッチ開放を遠隔で実施
2 遮へい	移動式の仮設遮へい、遮へい付搬送パレット、隔離部屋内遮へい体及び気密扉による遮へいを活用
3 線源除去	X-6 ハッチ開放時に落下した堆積物等を可能な限り回収し、遮へい付き回収BOXに収納
4 モックアップ	工場等でのモックアップ訓練により作業の習熟と時間短縮

管理的対策

項目	概要
1 低線量エリアの活用	原子炉建屋西側ヤードの低線量率エリアに現場本部を設置。
2 作業者の適正配置	遮へい体を活用し、作業人数と配置の最適化
3 モニタリングの省力化	無線式線量計 (P-WARM)、リモートモニタリングシステム (RMS) により、空間線量率および個人線量の常時監視



出典：東京電力ホールディングス株式会社

編集：東芝エネルギーシステムズ(株)